

第5章 ビジョンの推進に当たって

この章では、戦略ビジョンの推進に当たっての「基本理念」と、私たちが一体となってまちづくりに取り組むための共通の「基本姿勢」を示すとともに、私たちの生活や価値観が複雑・多様化する中で、経営資源¹⁰⁵の有効活用を図りながら、この戦略ビジョンを戦略的に推進するために必要となる「選択と集中」の考え方を示します。

第1節 基本理念

私たちは、先人たちが幾多の苦難を乗り越え、築き上げてきた世界に誇る魅力的なこのまちを受け継いでいます。今後、社会経済情勢が大きく変化しても、未来に向けてこのまちを良好な形で次世代に引き継いでいく責任を果たしていかなければなりません。

そこで、戦略ビジョンの推進に当たっての基本理念を、以下のとおり掲げます。

～ 札幌の未来をつなぐ子どもたちのために ～

私たちは、一人ひとりの暮らしや地域・企業活動など、あらゆる場面において、常に札幌の明日をつくる子どもたちが、笑顔で生きいきと幸せに暮らす姿を思い描きながら、持続可能なまちづくりを進めていかなければなりません。

また、子どもたちを、ふるさと札幌・北海道の魅力を語り、さらに磨き上げることのできる大人に育てていく使命があります。

そして、まちづくりの担い手に成長した子どもたちが、また次の世代に、このまちの魅力を引き継いでいくことにより、世代間の良好な循環を実現します。

第2節 基本姿勢

私たちが一体となってまちづくりに取り組んでいくために、4つの共通の基本姿勢を掲げます。

1 市民が主役のまちづくり

地域主権型社会を実現するためには、まちづくりの主役である市民自らが、主体的に参加することが求められます。

そこで、私たちは、自分たちの地域のことは、自分たちで考え、自分たちの力で解決する市民自治のまちづくりを進めます。

¹⁰⁵ 【経営資源】まちづくりを支える各主体の、いわゆる「ヒト」「モノ」「カネ」および「情報」(知的財産)などの無形資産の総称

(1) 市民一人ひとりの参画

私たちの行動が、深くまちづくりにつながっていることを認識し、まちづくりや市政について関心を持ち、話し合い、積極的かつ主体的に参画します。

(2) 多様な主体によるネットワークの推進

さまざまなまちづくりの主体が相互に連携し、ネットワークを広げ、複雑・多様化する地域課題に対応します。

2 まちの活力を高める人づくり

札幌が今後とも魅力的なまちであり続けるためには、「人」がまちづくりの資源であり、新たな時代を担う推進力であると位置付け、それぞれの個性と能力を伸ばしていくことが必要です。

そこで、私たちは、さまざまな場面において、市民一人ひとりが社会で活躍する力を養う人づくりを進めています。

(1) 札幌人の育成

変化の早い時代に対応した進取性¹⁰⁶を備え、コミュニケーション力¹⁰⁷や行動力を併せ持ち、地域や世界で活躍する未来の札幌人をみんなで育てます。

(2) 市民が活躍できる環境づくり

誰もが生きがいと役割を持ち、社会に参加できるようにするために、さまざまな立場の人たちの能力を引き出し、活躍できる環境をつくります。

(3) 未来を担う子どもたちへのまなざし

常に子どもたちに温かなまなざしを向け、健やかな成長を願うとともに、子どもたちが札幌の未来について主体的に考え、学び、行動するための機会を提供します。

3 北海道と共に発展する札幌

札幌と北海道の発展は、表裏一体の関係にあります。

そこで、私たちは、札幌の魅力や経済活動が、北海道の人々、自然、資源などに支えられたものであり、札幌の発展は北海道と共にあることを常に意識しながら、北海道の中心都市としての役割を果たしていきます。

¹⁰⁶ 【進取性】従来の慣習にこだわらず、進んで新しいことをしようとする性質

¹⁰⁷ 【コミュニケーション力】他者と協働したり、働いたりするために必要な能力の一部であり、「意思疎通」、「協調性」、「自己表現能力」で構成される。

(1) 北海道の資源との連携

近隣市町村や道内中核都市¹⁰⁸など、道内の他市町村との広域的な連携を深めながら、北海道が持つ豊かな資源と札幌が持つ都市機能やブランド力を結び付け、札幌や北海道の魅力を相乗的に高めます。

(2) 北海道内の経済循環の促進

札幌の市民や企業などが、北海道の魅力や価値をあらためて認識し、道産品の消費や道内観光、道内企業との取引などを積極的に行い、道内の経済循環を高めていきます。

(3) 北海道の魅力の発信

札幌が持つ情報発信機能を活用し、北海道全体の魅力を札幌から道外へ発信します。

4 限りある資源の有効活用と共創¹⁰⁹

地球規模の環境問題への対応や高齢化の進行、都市基盤の維持・保全などにより、社会的な費用が増大していくことが予想される中、行政と民間の役割分担や連携を十分考慮しながら、社会経済情勢の変化に対応し、効果的なまちづくりを進めていくことが重要です。

そこで、私たちは、市民・企業・行政が一体となって、それぞれの知恵と工夫により、限りある資源を有効に活用し、相乗効果を発揮します。

(1) 官民の持つ力による共創の推進

市民・企業・行政がそれぞれの持てる力を発揮しながら、共創によって魅力と活力のあるまちづくりを進めていきます。

(2) 世代間の公平性に配慮した資源活用

未来を担う子どもたちに過度な負担を残さないため、世代間の負担の公平性を考慮し、将来を見据えた効率的な資源の活用に努めます。

第3節 戦略ビジョンの効果的推進

札幌市を取り巻く社会経済情勢の変化は、さまざまな分野において、かつて経験したことのないような影響を与え、これまでと同様の考え方や取り組みでは、解決することが困難な課題が、ますます顕在化していくと予測されます。

¹⁰⁸ 【中核都市】新・北海道総合計画において、人口規模が一定以上で、行政をはじめ経済、医療、教育、文化などの面で高度な都市機能を持つ、函館市、旭川市、釧路市、帯広市、北見市および札幌市を中核都市と定めている。

¹⁰⁹ 【共創】まちづくりの取り組みの中で、それぞれの主体が目標を共有し、それぞれの持つ知識やノウハウをはじめとする資源を最大限活用していくこと

このような時代にあって、戦略ビジョンを効果的に推進していくためには、こうした課題を的確に見定めた上で、資源を集中的に投下するなど、「選択と集中」により戦略的にまちづくりを進めていくことが重要です。

＜今後、戦略的に取り組むべきテーマ＞

第4章の基本目標の実現に向けた取り組みを進めるに当たり、第2章における社会経済情勢の変化を踏まえ、今後10年間で最も大きなパラダイムの転換が必要となる以下の3つのテーマを選択し、集中的に施策を展開します。

【暮らし・コミュニティ】

高齢化の急速な進展による高齢単身世帯の増加やさまざまな要因による社会的孤立¹¹⁰の顕在化が懸念されることなどを踏まえ、地域でのつながりや支え合いによる共助の意識を広く醸成し、さらに、それらを補完するしくみづくりに取り組むことによって、いかに安心して暮らせる地域をつくり出していくかというテーマ

【産業・活力】

今後想定される人口減少は、地域消費型¹¹¹の経済構造となっている札幌・北海道に深刻な影響を与えることが懸念されることから、北海道経済全体の活性化を見据えた上で、札幌・北海道の魅力や強みを生かしつつ、新たな付加価値を創造することによって、いかに足腰の強い経済基盤を確立させていくかというテーマ

【低炭素社会・エネルギー転換】

地球温暖化や東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、今後は低炭素社会と脱原発依存社会を実現していくことが、先人が築き上げてきた札幌の財産を未来に引き継ぐためには重要であることから、このために環境エネルギー政策をまちづくりの中核に位置付け、いかにエネルギーの大消費地としての責務を果たしていくかというテーマ

これらのテーマに沿った具体的な処方箋は、「戦略編」で設定します。

なお、課題認識と戦略設定は、時代の変化に迅速に対応する必要があることから、適宜中間点検し、戦略の追加・補正を行うなど柔軟に対応します。

¹¹⁰【社会的孤立】社会の中で居場所、社会的な安定性を持たない社会的集団または個人を指す。

¹¹¹【地域消費型】ある圏域において生産されるものや提供されるサービスを圏域内で消費する行動形態

ビジョン編

第2章 社会経済情勢の変化と札幌

◆札幌市を取り巻くさまざまな社会的課題が顕在化◆

- ①「人口減少・少子高齢化」～社会的孤立の顕在化、郊外住宅地などにおける人口減少・高齢化
- ②「産業基盤の脆弱性」～生産年齢人口と経済規模の相関性、グローバル化への対応
- ③「東日本大震災、原子力発電所事故」～脱原発依存の意識の高まり、二酸化炭素排出量の特性

第3章 私たちが目指す札幌市の将来

◆目指すべき都市像◆

「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」

「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」

第4章 まちづくりの基本目標

◆まちづくりの分野を7つに分け、各分野において「まちづくりの基本目標」を設定◆

- ①「地域」～つながりと支え合い～
- ④「安全・安心」～人に優しいまち～
- ②「経済」～暮らしと雇用を支える～
- ⑤「環境」～次世代へ引き継ぐ～
- ③「子ども・若者」～健やかに育む～
- ⑥「文化」～創造性を育む～
- ⑦「都市空間」～魅力と活力ある都市の形成～

「目指すべき都市像」を実現するためのさまざまな分野からなる「基本目標」に対し、「社会経済情勢の変化」で明らかにした札幌が直面する課題を克服し、札幌の持つ魅力や資源を生かし、伸ばす観点から、パラダイムの転換が求められる3つの方向性を「選択」

戦略編

暮らし ・コミュニティ

地域の衰退を防ぎ、
コミュニティでの暮らしを
豊かにしていく必要性

産業・活力

厳しい経済状況を克服し、
活力ある産業の創造により、
都市を豊かにする必要性

低炭素社会 ・エネルギー転換

低炭素社会の実現や
エネルギー政策の転換を
都市として対応する必要性